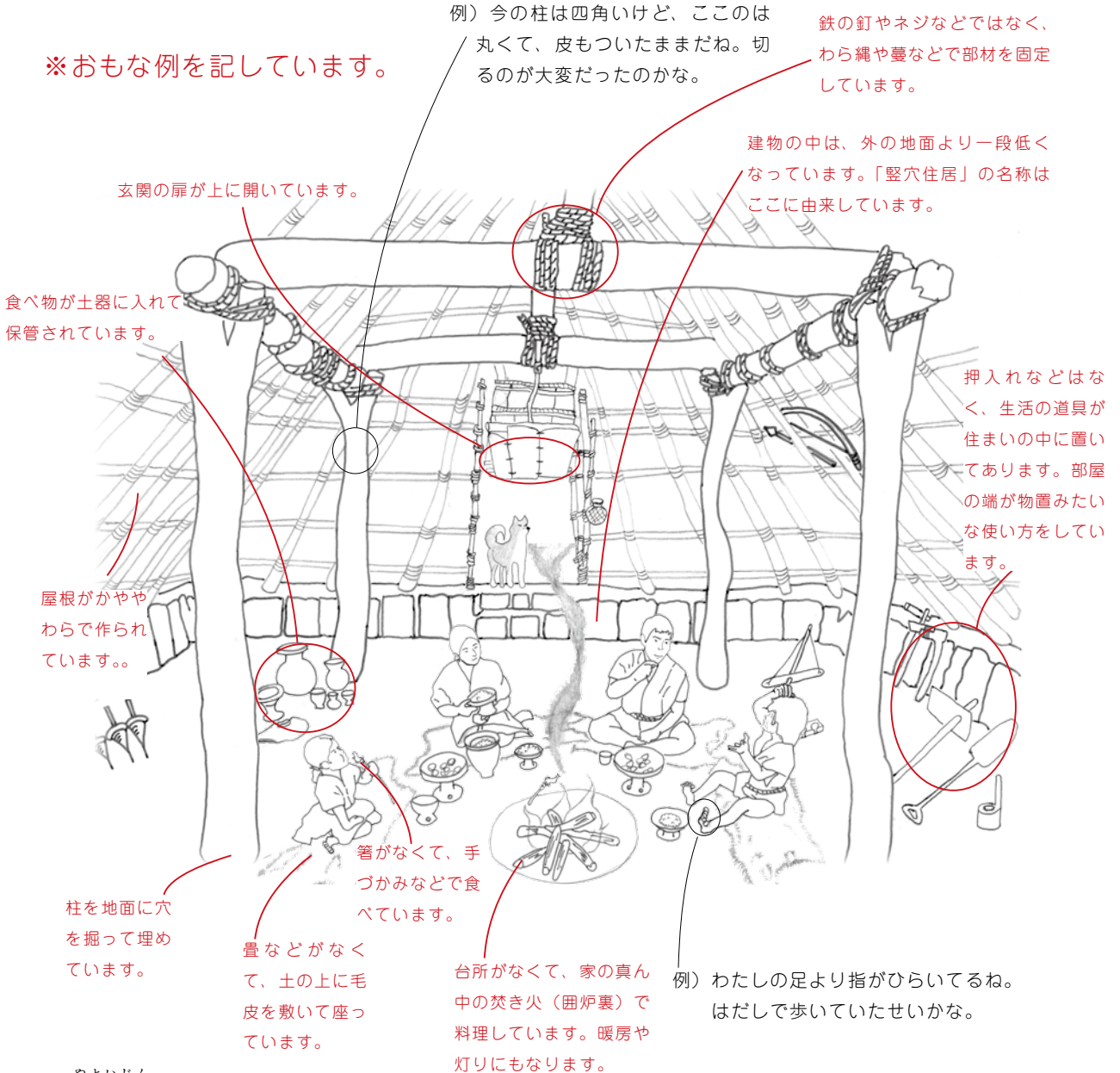


# 目で見える弥生文化

ワークシート 1



弥生時代終わりごろの家の中に、家族の食事のようすを再現しています。家の中には1つの部屋しかなく、この中で料理も食事も寝ることなども、すべておこなわれています。また、まん中にある炉は調理だけでなく、夜のあかりや暖房にもなります。はしの方には道具や食べ物がおいてあり、物置になっています。

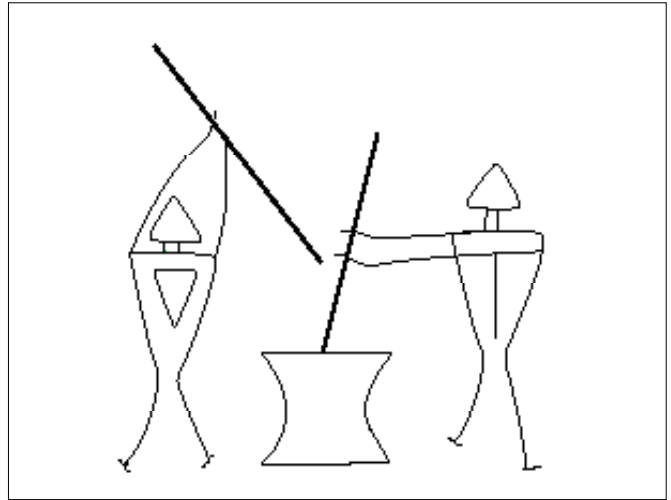
☆ みんなの家とくらべて違うところ、同じところを探して、「例」のように図のまわりに書き出してみよう。たくさんあるから友達とも話し合ってみよう。

## 弥生の絵

「弥生人の暮らし」の住居の右どなりにあるガラスのかべには、弥生時代の人が描いた3つの絵があるよ。その中から左下の絵の作業を描いたものを選んで□にかいてみよう。



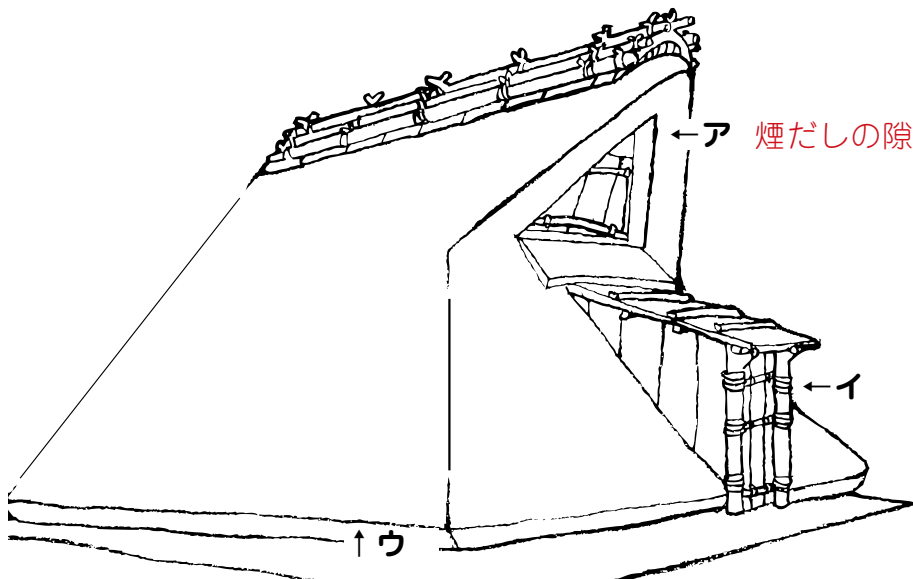
いなほ だっこく せいはいく  
稲穂の脱穀・精白をする作業



穂首刈りをした稲穂を臼に入れて杵で突くことで、粉を落とし、粉殻をはずしています。

## 弥生の建物～竪穴住居～

弥生の家族が住む家を玄関から見ると、家の床は外の地面よりも1段低くなっています。穴を掘って床を低くすることで、夏はずすしく、冬はあたたかい家になります。このような建物を「竪穴住居」と呼んでいます。



←ア 煙だしの隙間があります。

←イ

↑ウ

☆ 家の炉で火を燃やすと煙が出るけど、その煙がもっとも多く外に出てくる場所は図のア～ウのどれかな。 ( ア )

※煙でいぶされることで、シロアリなどへの防虫効果もあります。